

# 2019 年度北栄町農業再生協議会水田フル活用ビジョン

## 1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

北栄町は、なだらかな丘陵地帯には約 750ha の広大な黒ぼく畑が広がり、北の海岸線沿いには約 630ha の砂丘地、平野部には約 1,000ha の水田地帯があり、バランスのとれた農業が展開されている。

畑地においては、かんがい設備の完備により砂丘畑で長いも・らっきょう、黒ぼく畑でスイカ・ブロッコリー等の野菜が栽培され、県下でも有数の農業地帯となっている。

水田においては、大区画圃場整備事業や農業政策の推進に伴い集落営農組織が多く設立されており、主要な担い手として、水稻・麦・大豆・新規需要米の栽培を中心とした効率的な営農、水系を考慮したブロックローテーションによる麦・大豆の団地化と水田の高度利用が行われている。

しかし、近年、担い手の高齢化、農産物の価格低迷等による遊休農地や低利用農地が増加しており、家族経営を含む多様な担い手の確保、認定農業者や集落営農組織を中心とした営農推進を行い、土地利用効率の向上を図っていく必要がある。

農地の維持にあたっては、担い手の規模拡大・生産性向上・コスト削減を支援することが重要で、農地中間管理機構を活用した農地集積、団地化等を一層進めていく必要がある。

また、需要に応じた作物生産に移行するため、販売計画を踏まえた主食用米の生産、戦略作物や地域の特徴を活かした特産作物の作付推進にも継続して取り組むことが重要であり、水田フル活用ビジョンに基づくきめ細かな取組を支援する。

## 2 作物ごとの取組方針等

町内の約 1,000ha（不作付地を含む）の水田について、適地適作を基本として、主食用米・麦・大豆・新規需用米等の維持・拡大を図ることとする。

### （１）主食用米

高温登熟や収穫作業の遅れ等による品質低下を回避するため、現在の早生品種に偏った品種構成を見直し、収量・品質が安定して高い、高温に強い中生品種「きぬむすめ」の導入・推進を図る。また、収量・品質を確保するため、栽培管理の徹底や新技術の普及を行う。販売にあたっては JA 鳥取中央（以下：JA）の方針に従って京阪神方面への「鳥取米」の流通を継続する。

### （２）非主食用米

#### ア 飼料用米

実需者と出荷契約を取り交わし、供給計画に基づいて、畑作物が作付できない湿田地帯を中心に、多収品種の導入及び規模拡大の推進を図るとともに、中生品種で問題となるもみ枯細菌病対策の徹底による安定多収を推進する。

#### イ WCS 用稲

畜産農家の自給飼料確保と耕種農家の水田有効活用を図るため、耕畜連携を推進する。また、実需者である畜産農家のニーズに即した高品質な WCS 用稲を安定供給するため、耐倒伏性が強く、収量が確保できる品種の作付推進と、生育状況に応じ、現地巡回・指導会等を通じて肥培管理の徹底を図る。

### (3) 麦、大豆、飼料作物

麦については、契約栽培を行っている実需者（ビール及び麦茶）のニーズに応えるため二条大麦の安定供給を図る。そのために、湿害回避のための栽培管理の徹底、耕耘同時畝立播種等新技術の普及、適期作業の遵守や基本技術の励行および適切な土壌管理を進め、収量・品質を確保するとともに、集落営農組織への作付及び二毛作の推進を行い、作付面積の拡大を進める。

大豆については、契約栽培を行っている実需者（大豆卸会社）のニーズに応え、高品質・安定収量を確保するため、湿害対策である耕耘同時畝立播種、難防除雑草対策である畝間除草等新技術の普及、適期作業の遵守や基本技術の励行および適切な土壌管理を進めることで、規模拡大を推進する。また、集落営農組織によるブロックローテーションを推進し、連作障害を回避するとともに、水田の地力向上を図る。

飼料作物については、大栄地区内の畜産農家の飼料自給率は低く、購入飼料に依存していることから経費の負担が大きくなっている。また、輸入粗飼料の利用に警戒感が高まっている状況で、自給飼料による安全・安心な畜産物が求められており、耕畜連携を推進して畜産農家のコスト低減を図る。

### (4) 高収益作物（園芸作物等）

ブロッコリーは県内や関西方面からの需要が多く、妻波地区、大谷地区で主に取り組まれている。市場の要望に対し、安定供給を図るため引き続き作付の推進を図る。

芝については、本県が日本有数の芝産地であることからゴルフ場等への一定の需要があり、引き続き作付を推進し、収益力の向上を図る。

### 3 作物ごとの作付予定面積

作物	前年度の作付面積 (ha)	当年度の作付予定面積 (ha)	2020年度の目標作付面積 (ha)
主食用米	570.9	575.8	570
飼料用米	67.0	58.7	71
新市場開拓用米	0	0	3
WCS用稲	30.6	33.4	30
麦	65.4	66.2	65
大豆	74.8	77.5	76
飼料作物	55.8	63.1	56
そば	0.2	0.4	0.2
その他地域振興作物	11.4	11.7	12.6
ブロッコリー	2.3	3.0	3.0
芝	9.1	8.7	9.6
合計	876.1	886.8	883.8

### 4 課題解決に向けた取組及び目標

整理 番号	対象作物	用途名	目標	現状値	目標値
				(2018年度)	(2020年度)
1	麦、大豆、飼料作物	二毛作助成	作付面積	8,227 a	9,100a
2-1	麦・大豆	麦・大豆土壌改良助成	作付面積	— a	14,100a
2-2			土壌改良診断率	麦 — % 大豆 — %	麦 100% 大豆 98%
3	飼料用米	飼料用米追肥助成	作付面積 基準単収達成率	— a — %	5,500a 70%
4	ブロッコリー	ブロッコリー作付助成	作付面積	147 a	300a
5	芝	芝作付助成	作付面積	833 a	960a

※ 必要に応じて、面積に加え、取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定して下さい。

※ 目標期間は3年以内として下さい。

### 5 産地交付金の活用方法の明細

別紙のとおり

別紙

## 産地交付金の活用方法の明細

1. 地域農業再生協議会名

北栄町農業再生協議会
------------

2. 活用予定額の総括表

(単位:円)

協議会等名	配分枠 (A+B)		活用予定額
	当初配分 (A)	追加配分 (B)	
北栄町農業再生協議会	25,860,000	25,860,000	25,840,800

(注)追加配分が未定の段階にあつては、該当箇所を空欄により作成することとします。

3. 活用法

配分枠

25,860,000円

整理番号	用途 ※1	作期等 ※2	単価① (円/10a)	面積 (a単位)※3																所要額 ①×② (円)	
				戦略作物							新市場 開拓用米	そば	なたね	野菜	花き・花木	果樹	雑穀	その他	畑地化		合計 ② ※5
				麦	大豆	飼料作物	米粉用米	飼料用米	WCS用稲	加工用米											
1	二毛作助成	2	12,000	5,250		4,000													9,250	11,100,000	
2-1	麦・大豆土壌改良助成	1	8,800	1,250	7,400														8,650	7,612,000	
2-2	麦・大豆土壌改良助成	2	8,800	5,250															5,250	4,620,000	
3	飼料用米追肥助成	1	3,200					5,600											5,600	1,792,000	
4	ブロッコリー作付助成	1	6,400										270						270	172,800	
5	芝作付助成	1	6,400														850		850	544,000	
合計(基幹)※4			実面積	1,250	7,400			5,600					270				850		15,370	※6	
合計(二毛作)※4			実面積	5,250		4,000													9,250	25,840,800	

※1 二毛作及び耕畜連携を対象とする用途は、他の設定と分けて記入し、二毛作の場合は用途の名称に「〇〇〇(二毛作)」、耕畜連携の場合は用途の名称に「〇〇〇(耕畜連携)」と記入してください。

ただし、二毛作及び耕畜連携の支援の範囲は任意に設定することができるものとします。

なお、耕畜連携で二毛作も対象とする場合は、他の設定と分けて記入し、用途の名称に「〇〇〇(耕畜連携・二毛作)」と記入してください。

※2 「作期等」は、基幹作を対象とする用途は「1」、二毛作を対象とする用途は「2」、耕畜連携で基幹作を対象とする用途は「3」、耕畜連携で二毛作を対象とする用途は「4」と記入してください。

※3 「面積」は、当初配分により支援を行う用途について記入し、追加配分により支援を行う用途については、追加配分額が未定の段階にあっては空欄としてください。

※4 「合計(基幹)の実面積」は、基幹作を対象とした設定の実面積を記入し、「合計(二毛作)の実面積」は、二毛作を対象とした設定の実面積を記入してください。

また、「合計②」欄は、基幹作、二毛作それぞれの実面積の合計を記入してください。

※5 ②の合計は、各用途の合計面積を記入してください。

※6 所要額欄の二重枠には、所要額の合計を記入してください。

(注)用途ごとに「産地交付金の活用法の明細(個票)」を添付してください。

#### 4. 追加配分を受けた場合の調整方法

- ①個票の上限単価の範囲で一律調整する。
- ②高収益等拡大加算が追加配分された場合、上記の調整方法に準ずる。
- ③上限まで充当してもなお残余がある場合、全ての用途で一律に追加助成を行う。
- ④必要な場合は、次の単価調整を使用する。  
単価調整係数＝活用予定額／(用途ごとの対象面積×交付単価)の合計 単価調整係数は小数点第4位以下切り捨てとする。

#### 5. 所要額が配分枠を超過した場合の調整方法

それぞれの用途について、活用予定額に収まるよう、次の単価調整係数を乗じて交付単価を一律減額する。  
単価調整係数＝活用予定額／(用途ごとの対象面積×交付単価)の合計 単価調整係数は小数点第4位以下切り捨てとする。

#### 6. 高収益作物について

芝

注1 産地交付金で支援する作物のうち、高収益作物に該当する作物名(野菜、花き・花木、果樹除く)を記載してください。

注2 収益性のわかるデータを添付してください。

産地交付金の活用方法の明細(個票)

協議会名	北栄町農業再生協議会			整理番号	1	
使途名	二毛作助成					
対象作物	麦、大豆、飼料作物(二毛作)					
単 価	12,000 円/10a (上限:15,000円/10a)					
課 題	<p>経営農地及び農家が減少していく一方で、大麦はビール及び麦茶の原料として安定供給が求められている。また、畜産農家からは輸入飼料価格の高騰や伝染病の懸念から国産飼料の生産拡大が求められている。</p> <p>これらの作物は、水稻を基本とする表作後に作付されるため、排水対策が必須である。また、使用する農業機械が表作とは異なり経費負担が大きいために、需要ほどには二毛作が広がっていない。そのため、経費の一部を支援することで二毛作を推進し、耕種農家の収益力の向上を図る。</p>					
目 標			2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
	作付面積	目標	-	8,950a	9,250a	9,100a
		実績	8,578a	8,227a	-	-
内 容	○戦略作物等について二毛作の作付、販売等をする農業者に対して、作付面積に応じて助成する。					
具体的要件	<p>○助成対象者: 共通事項のとおり</p> <p>○助成対象水田: 共通事項のとおり</p> <p>○助成対象作物: 麦、大豆、飼料作物(二毛作)</p> <p>○その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・主食用米と対象作物又は戦略作物と対象作物の組み合わせによる二毛作であること</li> <li>・通常の収穫を上げるのに必要な栽植密度があり、通常の肥培管理を行っていること</li> <li>・麦は、実需要者等との出荷契約又は販売契約を締結していること</li> <li>・飼料作物は、実需要者等との利用供給協定の締結又は自家利用計画を策定していること</li> <li>・麦において、自家加工販売や直売所での販売を予定する場合は、自家加工販売計画書兼出荷・販売報告書を提出すること</li> </ul>					
取組の 確認方法	<p>○助成対象者: 共通事項のとおり</p> <p>○助成対象水田: 共通事項のとおり</p> <p>○助成対象作物: 共通事項のとおり</p> <p>その他の要件: 販売伝票、現地確認等により確認</p>					
成果等の 確認方法	支払対象面積の集計					
備考	整理番号2-2と重複して支援可能					

※ 課題や目標の数値については、必要に応じて参考となるデータを添付して下さい。

産地交付金の活用方法の明細(個票)

協議会名	北栄町農業再生協議会		整理番号	2-1.2-2		
用途名	麦・大豆土壌改良助成					
対象作物	麦、大豆(基幹作、二毛作)					
単 価	8,800 円/10a (上限:11,000円/10a)					
課 題	<p>麦については、現在、鳥取中央農協と麒麟ビールとの契約があり需要が多く、また二毛作による水田の高度利用による収益向上につなげるため今後も推進していく必要がある。しかし、平成30年産については、品質、収量が上がり契約数量を達成できなかった。品質を向上してビール麦としての出荷量を増やし、収益の向上を目指すためには、収量・品質の改善に産地全体で取り組んでいく必要がある。こうしたなか、低収量ほ場で土壌pHが低い事例が散見されており、収量が上がらない要因の一つに土壌の酸性化が考えられる。このことから、土壌診断および結果を踏まえての適正な土壌改良剤の施用の推進により品質・収量の向上を目指す。</p> <p>大豆の初期生育確保には湿害回避による排水対策が第一であるが、これに対する農家の認識は定着したと思われる。一方で、大豆作における土づくりの重要性については農家の理解が進んでおらず、土壌改良資材の施用があまり行われていない現状があり、このことが大豆の収量、品質が年々低収・小粒傾向にある一因と考えられる。このため、麦と同様、土壌診断および結果を踏まえての適正な土壌改良剤の施用の推進により品質・収量の向上を目指すこととする。</p>					
目 標		2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	
	作付面積	目標 集積率 (1ha以上)	-	-	13,900a 麦 100% 大豆98%	14,100a 麦 100% 大豆98%
		実績 集積率 (1ha以上)	-	-	-	-
内 容	○土壌診断、土壌改良を行い、水田への麦・大豆作付面積それぞれ1ha以上の作付を行った販売農家に対して、作付面積に応じて助成する。					
具体的要件	<p>○助成対象者: 共通事項のとおり</p> <p>○助成対象水田: 共通事項のとおり</p> <p>○助成対象作物: 麦・大豆(基幹作、二毛作)</p> <p>○その他の要件: 販売すること又は販売目的で栽培されていること</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれの品目で、1ha以上の作付を行うこと</li> <li>・土壌診断、土壌改良を行うこと</li> <li>・麦の収穫後に大豆の作付を行った場合、それぞれを対象とする。</li> </ul>					
取組の 確認方法	<p>○助成対象者: 共通事項のとおり</p> <p>○助成対象水田: 共通事項のとおり</p> <p>○助成対象作物: 共通事項のとおり</p> <p>○その他の要件: 土壌分析結果、販売伝票等により確認</p>					
成果等の 確認方法	支払対象面積の集計					
備考	(2-2について)整理番号1と重複して支援可能					

※ 課題や目標の数値については、必要に応じて参考となるデータを添付して下さい。

産地交付金の活用方法の明細(個票)

協議会名	北栄町農業再生協議会		整理番号	3		
用途名	飼料用米追肥助成					
対象作物	飼料用米(基幹作)					
単 価	3,200 円/10a (上限:4,000円/10a)					
課 題	<p>主食用米偏重からの脱却を図るため、需要の多い飼料用米をについて鳥取中央農協と連携して推進していく必要があるが、昨年度飼料用米の栽培に取り組んだ56人(組織含む)のうち基準収量以上は27人(組織含む)と十分な収量確保ができていない。</p> <p>これは、高齢化による担い手不足の影響で、省力的な一発肥料の使用が多勢を占めている中、近年は夏期の猛暑が続き、施用した肥料の効果が予定より早く切れてしまい、生育後期の栄養不足による減収を招いていることが一因と考えられる。対策として、追肥の施用が効果的だが、現状は、コスト負担と作業効率の問題から追肥の取組が進んでいない。</p> <p>このため、追肥の取組を支援し収量確保を図る。</p>					
目 標	作付面積	目標	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
		実績	-	-	5,600a	5,500a
	基準単収比	目標	-	-	-	-
		実績	-	-	68%	70%
内 容	○支援対象作物を栽培し、追肥を行い、基準単収以上収穫した生産者に対し支援。					
具体的要件	<p>○助成対象者 共通事項のとおり</p> <p>○助成対象水田 共通事項のとおり</p> <p>○助成対象作物 需要に応じた米の生産・販売の推進に関する要領別紙1の第4の規定による多収品種(基幹作)</p> <p>○その他要件</p> <p>①需要に応じた米の生産・販売の推進に関する要領別紙2の第4の規定による取組計画の認定を受けていること</p> <p>②1圃場につき1回の助成とする</p> <p>③基準単収以上収穫すること</p>					
取組の確認方法	<p>○助成対象者 共通事項のとおり</p> <p>○助成対象水田 共通事項のとおり</p> <p>○助成対象作物 飼料用米</p> <p>○その他要件</p> <p>①需要に応じた米の生産・販売の推進に関する要領別紙2の第5の規定による生産集出荷数量一覧表等により確認</p> <p>②対象作物および追肥について栽培日誌、購入伝票等により確認</p> <p>③出荷数量の証明書等により収穫量を確認</p>					
成果等の確認方法	支払対象面積及び出荷数量の証明書等による収穫量の集計					
備考	・戦略作物助成の調整方法と同様に当年産の作柄に応じて調整を行う。					

※ 課題や目標の数値については、必要に応じて参考となるデータを添付して下さい。

産地交付金の活用方法の明細(個票)

協議会名	北栄町農業再生協議会		整理番号	4		
用途名	ブロッコリー作付助成					
対象作物	ブロッコリー(基幹作)					
単 価	6,400 円/10a (上限:8,000円/10a)					
課 題	<p>本県は、西日本有数のブロッコリー産地である。本町でも畑を中心に栽培され、販売額が1億円を超える主要品目の一つとなっている。</p> <p>しかし、近年では秋の長雨等による病害の発生等が続き、安定的生産が課題となっている。市場の需要に応えるため、畑地だけでなく、水田でのブロッコリーの作付面積を拡大し、排水対策の着実な実施を推進し、安定供給を目指す。</p>					
目 標			2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
	作付面積	目標	-	250a	270a	300a
		実績	211a	147a	-	-
内 容	○水田にブロッコリーを作付する販売農家で、排水対策を行ったものに対し、作付面積に応じて助成する。					
具体的要件	<p>○助成対象者:水田にブロッコリーを作付し、販売する農家</p> <p>○助成対象水田:共通事項のとおり</p> <p>○助成対象作物:ブロッコリー(基幹作)</p> <p>○その他の要件:</p> <p>①販売すること又は販売目的で栽培されていること</p> <p>②1圃場につき1回の助成とする</p> <p>③以下のいずれかの排水対策を行うこと</p> <p>(ア)額縁明渠</p> <p>(イ)高畝</p> <p>(ウ)畔切</p> <p>(エ)サブソイラー等による地下浸透促進</p>					
取組の 確認方法	<p>○助成対象者:共通事項のとおり</p> <p>○助成対象水田:共通事項のとおり</p> <p>○助成対象作物:共通事項のとおり</p> <p>○その他の要件:①現地確認 ②販売実績、作業日誌等による</p>					
成果等の 確認方法	支払対象面積の集計					
備考						

※ 課題や目標の数値については、必要に応じて参考となるデータを添付して下さい。

産地交付金の活用方法の明細(個票)

協議会名	北栄町農業再生協議会			整理番号	5	
使途名	芝作付助成					
対象作物	芝(基幹作)					
単 価	6,400 円/10a (上限:8,000円/10a)					
課 題	芝は本町では、販売額が1億円を超えている、1億円品目として作付の推進を行っている作物である。芝の作付が多い栄地区では傾斜地が多く、ほ場の大区画化等が困難であり、水田作物は個人単位で生産が行われている。農家の高齢化が進み、担い手不足の問題が進んでいる中で、高収益作物の中でも必要な労力が比較的少なく、ゴルフ場等への一定の需要がある芝の作付の拡大を推進していくことで、農地の遊休化を防ぐとともに、収益の向上を図る必要がある。しかし、出荷作業については必要労力が短期間に集中するため、自家労力だけでは作業が追い付かないという課題があり、出荷作業の経費について支援することで、作付の拡大を図っていく必要がある。					
目 標			2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
	作付面積	目標	-	940a	850a	960a
実績		850a	833a	-	-	
内 容	○水田に芝を作付する販売農家に、作付面積に応じて助成する。					
具体的要件	○助成対象者:水田に芝を作付し、販売する農家 ○助成対象水田:共通事項のとおり ○助成対象作物:芝(基幹作) ○その他の要件:①販売すること又は販売目的で栽培されていること ②1圃場につき1回の助成とする					
取組の 確認方法	○助成対象者:共通事項のとおり ○助成対象水田:共通事項のとおり ○助成対象作物:共通事項のとおり ○その他の要件:①現地確認 ②販売実績、作業日誌等による					
成果等の 確認方法	支払対象面積の集計					
備考						

※ 課題や目標の数値については、必要に応じて参考となるデータを添付して下さい。

## 別紙

### 1 共通事項

「共通事項のとおり」と記載されている場合は次のとおりとする。

(1) 具体的要件

ア 助成対象者

経営所得安定対策等実施要綱に定める者とする。

イ 助成対象水田

経営所得安定対策等実施要綱別紙1に定める水田とする。

(2) 確認方法

ア 助成対象者

経営所得安定対策等交付金交付申請書により確認。

イ 助成対象水田

水田台帳等により確認。

ウ 助成対象作物

共済加入、現地確認等により確認。

(添付資料) 高収益作物(芝)にかかる収益性のデータについて

10aあたり

	販売収入	経営費	所得	主食用米との比較	収益性
主食用米	129,158	107,943	21,215	1	-
芝	320,000	249,627	70,373	3.3171	高

- 注) ・データは「農業経営指導の手引き(平成30年版(鳥取県農林水産部))」から抜粋。  
・主食用米データは「水稻(稚苗移植)県下全域 平坦~中山間)」を使用。  
・芝データは「県中部~西部平坦地域(黒ぼく)」を使用。  
・収入には経営所得安定対策等の交付金等は含まない。

1 前提

該当する地域	県中部～西部平坦地域（黒ぼく）
設定した経営規模	しば 600a
自家労働	3人
その他	① 新植時、雇用 ② 収穫時、委託

2 作付体系

年次	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
1年目			◎◎◎◎	—————									
2年目以降		□□□		—————									

凡例：○播種、……育苗期間、△仮植、◎移植・定植、△ハウス、∩トンネル、——栽培期間、□収穫

3 施設機械装備

但し R = (1 - 残存割合) (単位：円)

種類	構造能力	面積 台数	取得価額	本作目 負担率	負担価額 (A)	償却額 (B) (A)×R	耐用 年数 (C)	年償却額 (D) (B)÷(C)	経過 年数 (E)	期首現在 価額 (F) (A)-(D)×(E)	自己資本 割合 (G)	自己資本 利子 (F)×(G)×利率
収納舎	木造・瓦	26 m <sup>2</sup>	1,638,000	100	1,638,000	1,638,000	15	109,200	8	764,400	100	30,576
トラクタ	4WD・25ps	1 台	2,870,640	100	2,870,640	2,870,640	7	410,091	4	1,230,276	50	24,605
ロータリ	160cm	1 台	475,200	100	475,200	475,200	7	67,886	4	203,656	50	4,073
芝刈機 (頭刈モア)	8.5ps	1 台	691,200	100	691,200	691,200	7	98,743	4	296,228	100	11,849
芝掃除機 (スイーパー)	8.5ps	0.5 台	1,161,000	100	1,161,000	1,161,000	7	165,857	4	497,572	100	19,903
動力噴霧機	可搬式6ps	1 台	281,880	100	281,880	281,880	7	40,269	4	120,804	100	4,832
動力運搬車	6ps	1 台	557,000	100	557,000	557,000	7	79,571	4	238,716	100	9,549
プロートキャスター		1 台	254,000	100	254,000	254,000	7	36,286	4	108,856	100	4,354
刈払機	肩掛け式	1 台	60,900	100	60,900	60,900	5	12,180	3	24,360	100	974
軽トラック	660cc、4WD、350kg積	1 台	1,050,000	100	1,050,000	1,050,000	4	262,500	2	525,000	100	21,000
建物・構築物計			1,638,000		1,638,000	1,638,000		109,200		764,400		30,576
機械・器具計			7,401,820		7,401,820	7,401,820		1,173,383		3,245,468		101,140
合計			9,039,820		9,039,820	9,039,820		1,282,583		4,009,868		131,716

4 技術体系 (10a 当たり)

作物名	品 種	栽培様式・作型	10a 当たり収量	ほ 場 条 件	作付面積
しば	高麗芝	養成	800 m <sup>2</sup>	黒ぼく土	200 a

項目	耕 種 基 準			作 業 基 準					
	作業期間 (月/旬～月/旬)	使用資材名	使用量	作業機名	作業精度及び方法	10a 当たり作業時間			燃 料 消費量 (ℓ/10a)
作業名						機械利 用時間	組 人員	延労働 時 間	
(新改植時) 植え付け準備	10～3	堆きゅう肥 石灰窒素 炭カル BM熔燐	5,000kg 60kg 600kg 200kg	動力運搬車 トラクタ フロードキスター 深耕ロータリ (委託)	○土壌改良材を全面散布し、深耕する。	0.5	2	1.5 3.5	ガソリン 0.5 軽油 3.0
植え付け	3/下～4/中	オール14 タインソノ粒剤5 種芝	40kg 9kg 100m <sup>2</sup>	トラクタ ロータリ  鎮圧ローラー (委託)	○緩効性肥料を植え付け1週間前に 全面散布する。 ○殺虫剤を散布し、浅耕後整地する。 ○植え付け作業は委託。 ○植え付け後、土が乾かないうちに 400～500kgの重量で鎮圧する。	1.0	2 1	2.0 1.0	軽油 3.0
鎮 圧	6/下			鎮圧ローラー (委託)	○4 t ローラーで鎮圧する。				
(単年) 頭 刈 り	4/下～11/中			芝刈り機 芝掃除機	○しばをよく張らせるため、定期的に 頭刈りを行う (年間16～18回) (春・秋1～2回/月、夏3～4回/月)	14.0 20.0	1 1	14.0 20.0	ガソリン 14.0 ガソリン 20.0
施 肥	4～9 収穫後	オール14 オール8 オール14 マルチサポート 鶏糞 硫酸第一鉄 尿素	50kg 100kg 20kg 60kg 200kg 1kg 500g	人力 軽トラック	○4～9月の間、月1～2回施用する。  ○収穫後は、萌芽に応じて施用する。 ○病気の発生を耕種的に抑えるため に9月中に止め肥を終える。 ○黄化症対策として散布する	5.0	1 1	7.0	ガソリン 10.0
除草 (手取)	随時	草取り鎌		人力	○草が生える場合は随時手取除草する	1.0	1	4.0	
除草 (畦畔)	随時			刈払機	○畦畔は年間2回程度刈る。	2.0	1	2.0	混合油2.0
除草剤散布	3～12	ハブーン乳剤 ターザインDF サイトロアミン液剤 ハブーン乳剤 アージラン液剤 ラボストロアブル アトラクティブ インポールDF ハスタ液剤※	600ml 100g 350ml 600ml 200ml 500ml 20g 25g 300ml	動力噴霧機 動力運搬車	○定期的に土壌処理をする。 ○雑草の発生量によって茎葉処理をする。 ○高温時の散布は水量を増し、 夕方に散布する。	2.5 2.5	2	5.0	ガソリン 2.5 ガソリン 2.5
病害虫防除	4～11 収穫前	スミチオン乳剤 タインソノ粒剤5 イカルカ35SC エンハーマC  展着剤 (ケラミンS)	300ml 9kg 250ml 250ml  500ml	動力噴霧機 動力運搬車	※畦畔のみ ○適期防除・初期防除に努める。	5.0	2	7.0	ガソリン 5.0 ガソリン 5.0
灌水	7～8			灌水装置	○高温期、乾燥したら適宜灌水する		1	1.0	ガソリン 0.5
収穫 (運搬) 片付け	随時 (3/中)	ロブラール水和剤 スミチオン乳剤  結束紐 熊手	500g 300ml  5玉	動力噴霧機 動力運搬車 動力運搬車	○しばが張り次第注文に応じて随時収 穫。 ○収穫前には病害虫防除を行う。 ○収穫作業は委託。 ○圃場外へしばを搬出する。 ○収穫後の残さはよく取り除く。	0.5 0.5 4.0	2 1	1.0 4.0	ガソリン 0.5 ガソリン 0.5 ガソリン 4.0
合 計								65.0	

5 経営試算(10a当たり)

区分	科目	金額	説明
粗収益	主産物価額③	320,000	生産量①： 800 m <sup>2</sup> 単価②： 400 円/m <sup>2</sup>
	主産物価額	0	生産量： 単価：
	主産物価額	0	生産量： 単価：
	副産物価額④	0	
	計 (A)	320,000	
生産原価	種 苗 費	3,000	
	肥 料 費	25,282	使用資材等は技術体系のとおり
	農 薬 費	34,629	〃
	諸 材 料 費	791	〃
	動力光熱費	12,302	
	農 具 費	5,146	機械負担価額×4%
	建物等修繕費	273	建物・構築物負担価額×1%
	賃 料 料 金	4,300	植え付け作業、収穫作業、深耕・鎮圧作業
	共 済 掛 金	0	
	雇 用 労 賃	3,112	
	減価償却費⑤	22,048	別表のとおり
	土地改良費	3,095	
	支払地代⑥	4,067	
	小計 (B)	118,044	
販売費一般	出荷資材費	2,862	
	販 売 諸 費	126,510	
	諸税負担金	1,045	農協賦課金、車検料、固定資産税
	事務研修費	927	農業新聞購読料、電話代
	支払利息⑦	239	借入資本利率2%
	小計 (C)	131,583	
経 営 費 (D)	249,627	注) (D) = (B) + (C)	
家族労働費見積額 ⑧	81,120	農 従 労 働 時 間： 61.1 生産管理労働時間 1.3 1,300 円/時間	
支払利子・地代算入生産費(E)	330,747	主産物単位当たり 413 円/1m <sup>2</sup> 注) (E) = (D) + ⑧ - ④	
自己資本	流動資本利子⑨	6,169	注) ⑨ = ((E) - ⑤ - ⑦) / 2 × 0.04
利子(F)	固定資本利子	2,276	利率4%
自 作 地 地 代 (G)	4,067		
全算入生産費 (H)	343,259	生産物単位当たり 429 円/1m <sup>2</sup> 注) (H) = (E) + (F) + (G)	
所 得 (I)	70,373	時間当たり 1,128 円 注) (I) = (A) - (D)	
所 得 率 (J)	22	注) (J) = (I) ÷ (A) × 100	
農企業利潤 (K)	-23,259	注) (K) = ③ - (H)	
家族労働報酬 (L)	57,861	時間当たり 927 円 注) (L) = (I) - (F) - (G)	
農業資本利潤 (M)	-10,747	注) (M) = (I) - ⑧	

7 労働の作業別、旬別配分(10a当たり時間)

月・旬 作業名	1月			2月			3月			4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			計	
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下		
新植時																																					0.0	
元肥施用・耕耘																																				5.0	5.0	
植え付け								2.0	1.0																												3.0	
																																					0.0	
単年																																					0.0	
頭刈り												2.0		2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	4.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0		2.0		2.0								34.0		
施肥											0.5	1.0	0.5	0.5	1.0	0.5		0.5		0.5	0.5		0.5		0.5											7.0		
除草剤散布									1.0								1.0				1.0				1.0												5.0	
手取除草・畦畔除草										2.0				0.5						0.5			0.5				2.0	0.5									6.0	
病虫害防除									1.0						1.0		1.0				1.0			1.0				1.0									7.0	
灌水																					0.5		0.5														1.0	
収穫(運搬)・片付け									5.0																													5.0
																																						0.0
計	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.0	2.0	2.0	0.5	3.0	0.5	3.0	4.0	2.5	4.0	2.5	4.0	4.0	4.0	2.0	4.5	2.0	2.5	1.0	5.5	0.5	2.0	0.0	0.0	4.0	0.0	0.0	0.0	0.0	65.0

生産管理労働時間

( 1.3 )

001	水稲（稚苗移植）
-----	----------

### 1 前提

該当する地域	県下全域 平坦～中山間
設定した経営規模	水稲（主食用米）120 a、水稲（飼料用米）30a、白ねぎ（秋冬）50a
自家労働	2.5 人
その他	①作付体系 1年1作 ②中型機械化体系 ③田植機、コンバインは共有 ④自家育苗、乾燥調製はカントリーエレベーターまたはライスセンター利用

### 2 作付体系

年次	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
各年次		○………… ◎—————□□□											

凡例：○播種、……育苗期間、△仮植、◎移植・定植、△ハウス、∩トンネル、——栽培期間、□収穫

### 3 施設機械装備

但し R = (1 - 残存割合) (単位：円)

種類	構造能力	面積 台数	取得価額	本作目 負担率	負担価額 (A)	償却額 (B) (A) × R	耐用 年数 (C)	年償却額 (D) (B) ÷ (C)	経過 年数 (E)	期首現在 価額 (F) (A) - (D) × (E)	自己資本 割合 (G)	自己資本 利子 (F) × (G) × 利率
農具舎	木造瓦	50 m <sup>2</sup>	3,400,000	30	1,020,000	1,020,000	15	68,000	8	475,999	50	9,520
トラクタ	22ps	1.0 台	2,041,200	60	1,224,720	1,224,720	7	174,960	4	524,880	50	10,498
ロータリ	160cm	1.0 台	561,750	60	337,050	337,050	7	48,150	4	144,450	50	2,889
乗用型田植機	4条植	0.1 台	113,400	100	113,400	113,400	7	16,200	4	48,600	50	972
動力散布機	26 <sup>リットル</sup> 背負	1.0 台	105,000	100	105,000	105,000	7	15,000	4	45,000	50	900
刈払い機	肩掛け式	1 台	50,000	50	25,000	25,000	7	3,572	4	10,714	50	214
自脱型コンバイン	3条刈	0.1	380,160	100	380,160	380,160	7	54,309	4	162,924	50	3,259
播種機	100箱/時	0.1 台	22,100	100	22,100	22,100	7	3,157	4	9,472	50	189
灌水用装置		1	177,000	40	70,800	70,800	7	10,114	4	30,342	50	607
軽トラック	660cc	1 台	1,050,000	30	315,000	315,000	4	78,750	2	157,500	50	3,150
合計			7,900,610		3,613,230	3,613,230		472,212		1,609,882		32,198

4 技術体系 (10a 当たり)

作物名	品 種	栽培様式・作型	10a 当たり収量	ほ 場 条 件	作付面積
水 稻	きぬむすめ	稚苗機械移植	600kg	15～30a 区画 汎用化水田	120a

項目 作業名	耕 種 基 準			作 業 基 準					
	作業期間 (月/旬～月/旬)	使用資材名	使用量	作業機名	作業精度及び方法	10a 当たり作業時間			燃 料 消費量 (% / 10a)
						機械利 用時間	組 人員	延労働 時 間	
種 子 予 措	4/中	種子	2.4kg		○水浸漬は種子体積の2～3倍の水で10～12日間行う。 ○催芽は、30～35℃の湯で鳩胸まで行う。		1	0.5	
苗 床 準 備	4/下			トラクタ	○苗置き床を耕耘・整地する。	0.2	1	0.3	軽油 0.2
播 種	4/下	グリーンソイル 育苗箱	64kg 16箱	播種機	○購入土を用いる。 ○播種量は乾粒で箱当たり150g。 ○播種後は平置きにし、育苗シートで被覆する。	0.2	3	1.5	
育 苗 管 理	4/下～5/下						1	4.0	
土 壌 改 良 材 散 布	4/下	苦土重焼燐	15kg	動力散布機		0.4	1	0.6	混合油 0.6
耕 転	4/下、5/中			トラクタ	○2度行い、深さ15cm程度とする	1.4	1	1.7	軽油 7.0
畦シート張り	5/上	畦シート	90m		○圃場の水持ちに応じて敷設する。		2	2.0	
代 か き	5/中			トラクタ	○あまり土を練らないようにする。	0.7	1	1.0	軽油 3.0
田 植 え (含む苗運搬)	5/下	アグリサポート444	32kg	田植機 軽トラック	○2.0～2.5葉の苗を移植する。 一株苗数3～4本、㎡当たり18株程度とする。 側状施肥。(慣行施肥の8割) 田植同時処理	1.0	3	3.0	ガソリン 1.8
除 草 剤 散 布	5/下	月光1号粒剤	1kg	こまきちゃん					
穂 肥 散 布	7/下、8/上	アグリNK520	35kg	動力散布機	○出穂25日前、15日前に20kg、15kgを目安とし施用する。	0.3	1	0.5	混合油 0.3
畦畔草刈り	5/上～9/中			草刈り機	○4回程度刈る。	1.5	1	1.8	混合油 2.4
病 害 虫 防 除	5/下 8/中 8/下	Dr.ホセプロリス粒剤 トレバリダピーム粉剤 トレボン粉剤	10.8kg 4kg 4kg	動力散布機 動力散布機	○いもち病、イネヌズカミなど対象 ○いもち病、紋枯れ病、ウカ類など対象 ○カメムシウカ類など対象		1 2	0.3 0.4	混合油 0.2
水 管 理	5/下～9/中			軽トラック			1	8.9	ガソリン 2.0
収 穫 ・ 籾 運 搬	10/上	グレインバッグ		自脱型コンバイン 軽トラック		0.5	2	1.6	軽油 3.5 ガソリン 0.9
合 計								28.1	

5 経営試算(10a当たり)

区分	科目	金額	説明
粗収益	主産物価額③	127,200	きぬむすめ生産量①： 600 kg 単価②： 212 円/kg
	主産物価額	0	生産量： kg 単価： 円/kg
	主産物価額	0	生産量： 単価：
	副産物価額④	1,958	
	計 (A)	129,158	
生産原価	種 苗 費	1,510	
	肥 料 費	6,362	使用資材等は技術体系のとおり
	農 薬 費	10,126	〃
	諸 材 料 費	2,039	〃
	動力光熱費	3,721	
	農 具 費	8,714	機械負担価額×4%
	建物等修繕費	850	建物・構築物負担価額×1%
	賃 料 料 金	15,000	
	共 済 掛 金	140	
	雇 用 労 賃	8,303	
	減価償却費⑤	39,351	別表のとおり
	土地改良費	1,806	
	支払地代⑥	458	
	小計 (B)	98,379	
販売費一般	出荷資材費	1,620	
	販 売 諸 費	540	
	諸税負担金	4,179	農協賦課金、車検料、固定資産税
	事務研修費	1,883	農業新聞購読料、電話代
	支払利息⑦	1,342	借入資本利率2%
	小計 (C)	9,563	
経 営 費 (D)	107,943	注) (D) = (B) + (C)	
家族労働費見積額 ⑧	24,960	農 従 労 働 時 間： 18.9 生産管理労働時間 0.3 1,300 円/時間	
支払利子・地代算入生産費(E)	130,945	主産物単位当たり 13,094 円/60kg 注) (E) = (D) + ⑧ - ④	
自己資本	流動資本利子⑨	1,805	注) ⑨ = ((E) - ⑤ - ⑦) / 2 × 0.04
利子(F)	固定資本利子	2,683	利率4%
自 作 地 地 代 (G)	5,042		
全算入生産費 (H)	140,475	生産物単位当たり 14,047 円/60kg 注) (H) = (E) + (F) + (G)	
所 得 (I)	21,215	時間当たり 1,105 円 注) (I) = (A) - (D)	
所 得 率 (J)	16	注) (J) = (I) ÷ (A) × 100	
農企業利潤 (K)	-13,275	注) (K) = ③ - (H)	
家族労働報酬 (L)	11,685	時間当たり 609 円 注) (L) = (I) - (F) - (G)	
農業資本利潤 (M)	-3,745	注) (M) = (I) - ⑧	

